

B. 円滑な学位授与の促進**④多様な学生に対する長期履修制度や早期修了制度の導入****●九州工業大学 工学府****「プロジェクト・リーダ型博士技術者の育成」の事例 <理工農系>****具体的に何を実施したのか**

本教育プログラムは、幅広く産業界で即戦力として期待されるような高度技術者としての人材育成を目指すため、博士前期課程および後期課程を統合する博士課程一貫教育として開講した。

実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと

博士前期課程では、専攻横断型の「開発プロジェクト」による実践教育を中心とするコースワーク、博士後期課程では、それぞれの専門領域での研究中心の「博士課程一貫教育」とすることにより、多様な履修内容に柔軟に対応することが可能となり、早期履修を容易に行うことができるようになった。博士前期課程のコースワークでは、修了要件としての履修単位数が多く課せられるため、各産業界の第一線で活躍する技術者の方々を講師に招いた座学「開発プロジェクト特論」、「先端産業システム特論」「宇宙航空システム特論」を、各期末試験後に集中講義の形で開講し、履修機会の利便性を図る等の工夫をして、早期修了を後押しした。

どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか

学生が博士後期課程に進学するのを躊躇する理由の一つとして、博士号取得までの在学期間が長く、それに伴う学費の問題が挙げられる。本教育プログラムでは、博士課程早期修了が可能であること、また学費相当分を博士前期課程よりTA (Teaching Assistant) として雇用されることに魅力を感じて大学院に進学したと評価する学生も多い。

●岡山大学 医歯薬学総合研究科**「ARTプログラムによる医学研究者育成」の事例 <医療系>****具体的に何を実施したのか**

医学部医学科学生が3年次から大学院座学講義で研究方法論基礎・臨床を早期履修できるようにした。

実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと

大学院を昼夜開講とし、すべての座学は午後6時45分からの夜間開講、あるいは休日開講として学部のカリキュラムとバッティングしないようにした。夜間・休日

に開催される研究セミナーや学会・国際シンポジウムなどを大学院学務委員会で審査の上、優れた内容と思われるものについては「大学院の講義と見なす制度」を取り入れ、大学院生が選択し易いように配慮した。

どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか

大学院生の座学講義への出席率が格段に向上した。また講義において熱心に討論や質疑応答が行われ、講義の質が向上した。学部学生が大学院研究に対する興味を強く持つようになった。